

---

# 拳銃

真貴人

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

拳銃

### 【Nコード】

N0507D

### 【作者名】

真貴人

### 【あらすじ】

毎日のように虐められ、学校にも行きたくないと思う人は世界中にたくさん居るだろう。そして、彼もまた例外では無かった・・・。

毎日のように虐められ、学校にも行きたくないと思う人は世界中にたくさん居るだろう。

そして、彼もまた例外では無かった・・・。

彼は中学二年生の男子、一部の上級生を中心とした同級生の虐めにあっていた

「誰がカレーパンって言った！？焼きそばパンだろ？」

「死にたいの？」

「す・すいません・・・。」

毎日毎日バリエーションが違いういじめ方、もっと他の事を考えた方がいいと思うが。

今日は縄でグルグル巻きにされ、掃除道具箱に入れられ一時間。

一時間経ったら箱を倒して箱を蹴ったり、殴ったり踏んだり・・・

教師も他の生徒も見てもみぬフリ。

彼の味方など、誰一人居なかった。

「いつまで寝てるの！？早く学校行きなさい。」

学校に行きたくも無いが、いつも親に追い出されて学校に行かなければならない。

昔、勇気を出して学校をサボったら警察に職務質問され、家に強制送還された。

そして、親に怒られ、次の日には虐めが2レベルくらいアップした。

周りは敵ばかり、無関心な親は気付かぬフリ。

彼は追い込まれていた。

ある日、学校に遅刻しそうになった。

「（遅刻すると更に虐められる・・・。）」

もつとも、虐められるのには変わらないのだが・・・。

急いでる為か、人に当たった。

彼は吹っ飛んだ。

朝食の食パンも吹っ飛んだ。

「何当たってんだワレ！」

「ひい、すいませんっ！」

「ごめんで済んだら警察はいらねーんだよ!」

ヤクザ風の男は、彼を強く蹴ってから立ち去った。

その時・・・

カチャッ!

「ん・・・?」

何かが落ちた。

彼はその黒く、存在感のある物を手に取り、驚愕とともに恐怖を覚えた

「じゅっ、銃だ……。ぴっ、ピストル。拳銃……。」

ずっしりと重量感があり、艶消しの黒。

そして、彼の脳裏に様々な言葉が浮かんだ。

とりあえず、あのヤクザ風の親父とは関わりたくも無いので、周囲を確認して、鞆に入れた。

学校へ行く途中でこの拳銃をどうしようと考えていた。

「警察に届けようか．．いや、そんな事したらまた厄介な事になるか．．．」

パニックのためか、上手く思考が回らない。

「そこら辺に捨てようかなあ。でも何かありそうだしなあ．．．あーだーこーだ．．．」

とりあえず、今日一日だけでも自分で持つ事にした。

ぼんやり考えて行っただおかげで遅刻してしまった。

そして、また虐め虐め虐め虐め虐め．．．．．

彼は泣き喚いた。

増える傷、痣、血反吐も出た。

今日の虐めは一段とレベルが上がった。

家に帰るまでが地獄（帰っても地獄の場合も有るが．．．）。

自分の部屋に入り、やっと休息と安心が証明された。

「あ．．．」

鞆を開けると、  
忘れていた拳銃が静かに、そして威圧感たっぷりに存在していた．．．。

とりあえず、鞆から出し、眺めてみた。

「これを撃つたらどうなるんだろう。どんな威力が出るんだろう・  
」

人を撃つたら・・・・・

「そうだ、あいつ等を撃つたら楽しいだろうなあ・・・」

一回試しに撃つてみようとも思ったが、弾が無いことにも気づいた。

いくつ入ってるか分からないが、

ネットで同じ物のモデルガンを調べると六弾入っている見たいなので彼は多分六弾入っているんだろうと思った。

いつも虐めている奴らは5人。

一弾は少しでも良いという事になるみたいなので、とりあえず明日奴らに発砲することに決めた。

もう、自分の命など、どうでも良いなどと考えていたのかもしれない。

長年の虐められた時のさまざまな恨みやストレスなどがドコドコと積み上げられ、

この狂気に満ちた虐められっ子が完成された・・・。

次の日、家を早めにでた彼は、トイレで拳銃をポケットの中に入れ、教室に行った。

教室に行くと、虐めっこ集団がすぐさま寄ってきた。

「おい、今日は早ええじゃねえかよ、ふざけんな」

何にでもケチをつけてくる。

近くに来た瞬間すぐさまにポケットから拳銃を出した。

「お、お前、殺されたくなければ、今すぐ俺の前で謝れ。」

「は、ハハハハハ。モデルガンなんか持って何やってるんだよ、俺達を馬鹿にしてるのかア？」

近くに寄ってきた一人に銃口を向け、そして発砲した。

パン！

銃から発砲音が鳴ると、彼は不意に受けた反動でよろけ、弾は虐めっここの耳を掠めた。

「（こ、こいつはマジだ・・・）」

虐めっこ達は青ざめたとともに、この狂った馬鹿を止めようと思った。

クラスにも人が集まってくる、女子は叫び、男子は興味本位で集ま



つてきたり、逃げたり・・・

すぐさま二発目を違う奴に向けて発砲した、腕に喰らい倒れた。

「野郎ッ！」

突然突進してきた虐めっこに向けて3発目を発砲したが、外した。

「うわあああああ！！！！！！」

ここで彼は全員を撃つことが出来なくなった。パニックで乱射する！

銃弾は黒板や窓ガラス、そして机などにあたり、彼は暴れた。

銃のグリップでいじめっこを殴ろうとしたが、逆に拳銃を取られ、ボコボコにされた。

彼は気絶した。

なんで、俺がこんな目に・・・

俺が悪いの・・・？

お前ら、見て見ぬフリして来たじゃないか・・・

なんで なんで こんな時だけ俺を見るんだよ・・・

やめろ やめてくれ・・・

俺は悪くない  
俺は・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0507d/>

---

拳銃

2010年12月19日10時42分発行